

ちとせ
地域福祉ネットワーク通信
Together ～一緒に～

平成30年3月発行
 事務局：千歳市保健福祉部
 福祉課総務係
 ☎ 24-0292
 Fax 22-8851

平成29年度ちとせ地域福祉ネットワーク会議を開催しました！

○日 時：平成30年2月23日（金）18：00～20：00

○テーマ：世代間交流

講演：「子どもが変われば大人が変わる、大人が変われば地域が変わる」

講師：北星学園大学社会福祉学部教授／さっぽろ子育てネットワーク代表 河野 和枝氏

グループワーク：「世代間交流でつながる地域の絆」

○参加者：青少年育成市民会議、民生委員児童委員連絡協議会、社会福祉協議会、女性団体協議会、町内会連合会、福祉分野の第一線で業務に従事している方や地域に密着した活動を行っている方など、悪天候の中ご参加いただき、ありがとうございます。合計22名が参加されました。

【講演概要】

- ◆ 地域の中でどんな活動が求められているのか。
- ◆ 人間の育ち、気持ちの中に『人間である』こと、『生きている』こと、『社会とつながり、ひとりでは生きていけない』ことの自覚が意識化されていない“ゆがみ”がある。
- ◆ 私さえ良ければ、我が家さえ良ければという価値観が周りを遮断し、カプセル家族が増え、育ちの場が失われている。
- ◆ 『育ちの場』が改めて必要。人として生きる学びの場と、育ちの場を改めて創る。
言葉で教えこむ子育ては伝わらない。大人と子どもがともに喜び、苦しみ、悩み行動するリアルな『経験』と伴う『実感』が人間を育てる
- ◆ 育ち合う居場所とは、多様な人がいる。おしゃべりが出来、話を聞いてくれる人がいる。命令や指示がなく、笑顔で見守ってくれる人がいる。ダメなことを、いけないことと叱ってくれる人がいる。一緒に考え、行動してくれる人がいる。
- ◆ 『きつい』関係と『ゆるい』関係、もう一つの間人間関係空間が『ナナメの関係』であり、多様な人が集える場所が必要である。それは、地域でしか実現できない。
- ◆ みんなで集える、心と心が結びつく緩やかな関係の『居場所』が大人、子ども、地域を創る。一緒に心を通わせる場所だけで終わらせるのではなく、葛藤とめんどくささ乗り越えて、地域にたくさんの居場所を創る。
- ◆ 「ひとりの子どもを育てるには村中の人が必要」というアフリカのことわざがある。
子どもが大人を頼りにする、困ったときに「支えて欲しい」、「助けて」と言える、お互いが声を発しながら子どもから信頼される大人になり、住みやすい地域を創っていききたい。



【グループワーク】テーマ「世代間交流でつながる地域の絆」

討議内容

～世代間交流を進める事業案づくり～

※各班の特徴的なものを抜粋

班	
A班	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達と職業見学 ・お料理教室～お年寄りから子どもへ～幅広い年齢層 ・昔遊びを子ども達に教える。 ・地域の交流会 ・困り事相談会 ・講習会（勉強会、手編み、パソコン教室） ・子ども会等の時に資源ごみの分別をする」 ・脳トレーニング、オセロゲーム等を行う事により人間形成に役立つと思われる。
B班	<ul style="list-style-type: none"> ・探検ごっこ、街めぐり、ハイキング ・みんなで歌を歌う ・キャンプのような、町内大避難訓練 ・読み聞かせ、紙芝居 ・ラジオ体操（子どもがリーダーとなり、地域住民がサポーター。高齢者を取り込む） ・北海道弁講座 ・出店市（ポップコーン、綿あめ、ヨーヨー釣り） ・学校訪問。地域の学校と仲良くなる。
C班	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと大人の見守り隊 ・ガレージセールで物々交換 ・町内会盆踊り（タイコの会） ・町内大掃除 ・歌を歌って踊る ・ゲーム大会 ・粘土遊び ・お泊り会…町内会館を利用して子どもたちと一泊。話をしたり、勉強、ゲーム、料理をして食べる)
D班	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が集いみんなで作って食べる。子どもから大人まで ・講習会（手芸、パソコン、お料理、) ・鑑賞会 ・オセロゲーム等を通じて交流を図る。 ・子ども達と職業見学 ・町内会共同作業（ごみの分別、資源の分別） ・老人が昔遊びを伝え、子ども達に伝える
E班	<ul style="list-style-type: none"> ・おふくろの味料理教室…一緒に作ることで会話が生まれ、若者の料理離れ、日本食離れ対策。 ・駄菓子屋カフェ…買った物を食べられる飲食スペース併設し、様々な年齢層を集める。 ・読書会…感想を語り合う。 ・長生き音頭をみんなで、歌って踊る。 ・昔の体験談を小さい子どもたちに話す。 ・茶話会…各年代交流。 ・昔遊びを子どもに教える。



【まとめ】

やれる事はいっぱいあって、「どういうやり方」で「どんな人を誘って」「どんな人に伝えていく」のか。人が人を呼び、積み上げていき、その積み重ねが地域をつなげていく。

声をかけても出てくれないのが現実の中、そこで終わってしまっは子ども達は育たない。それは、大人も育たないということ。みんなで小さな事からつなげていく事が大事。

『聞かせる会』『話せる会』はみんなが主人公。双方向の交流を大事にする。

一方的はみんな引いていく。『教えてあげたい』という気持ちも大事！でも、『教えてもらいたい』という気持ちを大事に『お互い様』双方向の関係を活かして住みやすい地域を創っていきたい。



☆今後も、ちとせ地域福祉ネットワーク会議を実施します。



会議でわかりあえる4つのこと！

- ☆地域の福祉の現状をわかって。(地域の福祉の状況を共有します)
- ☆地域で困っている人のこと(福祉ニーズ)をわかって。(地域にある福祉課題や求められる支援の情報を共有します)
- ☆地域の誰が何をしているのかをわかって。(地域に関わる他職種の人が集まるのでお互いの顔、お互いの役割がわかり、より連携がとりやすくなります)
- ☆地域の住民ができることをわかって。(福祉ニーズが広がる中で住民ができる助け合いの内容がわかります)